



2019年9月号
第391号
bestopia.jp

パリ通信
第93号

今月号はお願いと有益なお知らせです。まず、**お願いです**

真民さんファンのみなさま。お願い申し上げます。

下記の写真は「地球に額をつけて」p114に掲載されてた貴重なカラー写真でございます。

この本は「鳥は飛ばねばならぬ」に続き、平成6年8月初版され、平成18年4月初版6刷発行されました。諸事情が重なり、この本が大量に残っており、ぱるす出版を引き継がれた方が処分に困っておられることが分かりました。83篇の詩が12章にわたって編集、真民詩の代表作が掲載されています。

経営的には在庫処分となりますが、私たちの敬仰する真民詩を眠らせ、破棄するには偲びません。「義を見てせざるは勇なきなり」と動きました。

下記の条件でお助け頂ければ幸甚でございます。

発信は小原靖夫でございますが、本の販売等は、「ぱるす出版」さんです。

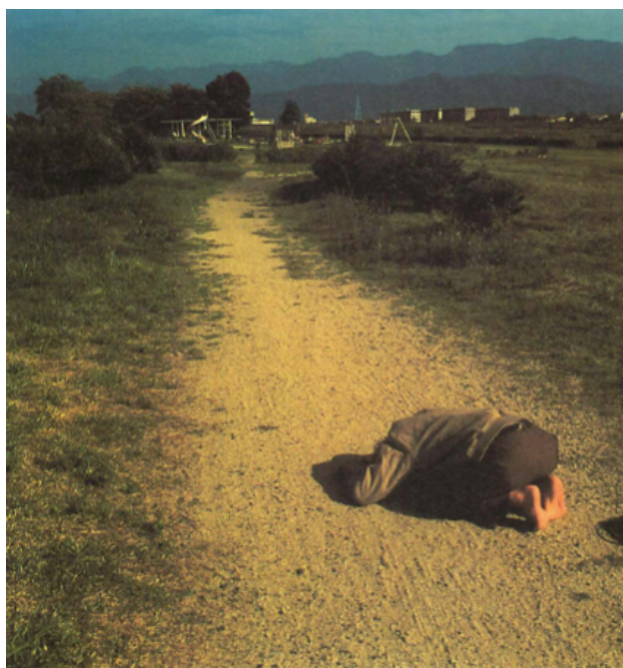
よろしくお願い申し上げます。

(1)条件

税抜き定価 @1942円ですが

5冊まとめて購入される場合、消費税、送料込めて¥7500となります。

5冊未満の場合は定価に送料200円がかかります。又は最寄りの書店でお求めください



重信川の河原で、大地ではなく、地球に額をつけ、人類の平安を祈る
撮影/吉田

あとがき

生きているということは、なんとありがたいことであろう。
詩を作り続けてきたことは、なんとうれしいことであろう。
英文対訳の詩集『鳥は飛ばねばならぬ』を出版して下さった、ぱるす出版社から、『地球に額をつけて』という詩集を発行して下さいになった。特に春日栄様には編集、装丁、万般にお世話になった。厚くお礼を申し上げます。
小さい時から川と深いつながりを持つわたしは、足立重信ゆかりの重信川の河畔に、終の栖を定め、それ以来三十年近く、重信橋を渡り、彼岸の川原で地球に額をつけて、暁天の祈りを続けてきた。
二十一世紀も間近い。拙ない詩だけれど一灯ともなれば、詩一筋に生きたわたしの何よりの喜びである。
写真は『禪の風』第五号。曹洞宗宗務庁発行昭和六十一年五月一日第二刷所載、『この人の報恩行、坂村真民さん』より転載させて頂いた。撮影は吉田和美氏。足の裏にライトを当てて下さっているのが感動的である。

浜木綿の花咲く家にて

真民

(2)取り扱い元

ぱるす出版株式会社 郵便番号113-0033 東京都文京区本郷2-25-14-508
 電話番号 03-5577-6201 ファックス03-5577-6202 担当 梶原さん
 ホームページ。 www.pulse-p.co.jp メール info@pulse-p.co.jp

(3)5冊以上ご注文の場合は電話にて直接話し合ってください。

(4)支払い方法 商品受領後、同封される振込用紙にて郵便局から振り込み、
 又は 銀行振込です。

2, お知らせ

パリ通信6月号で紹介されたユーロヴェロ (EuroVelo) が日本で見られることになりました。見どころはパリ通信9月号をお読みください。古賀さんはフランスでの撮影をサポートされました。ユーロヴェロはヨーロッパ自転車連盟の推奨する全欧自転車道路網。ヨーロッパ全土を東西6ルート南北6ルートの12の長距離ルートで結ぶプロジェクトである。全長6万km、そのうち2万km以上が既に施行されている。今回の番組は東西の第8ルートである地中海ルート (Mediterranean Route) を俳優の内田朝陽:さんが走破する。その間の景色が楽しめるようです。出発点はスペインのカディス (地図参照)、南仏を経由して終着はキプロスに至る全長5,888kmです。古賀さんのお勧めの一つは南仏の「カマルグ種の馬」生まれたては黒又は栗色で、成長とともに少しずつ色が薄くなり4年から8年で白馬になる。美しい景観と共に自転車の旅がどうなるか。楽しみな番組です



自転車旅7
ユーロヴェロ7000キロ

ペダルを踏み込むと
始まる旅がある

放送 **10月5日(土) 夜7:00~8:59**

11月3日(日) 夜8:00~9:59

NHK教育番組です。BSプレミアムです。

放送は10月5日(土曜日) 夜7:00~8:59
 NHK BSプレミアムです

3, 「わたしの幸せあなたの幸せ」裏話 3

(1)20年ぶりにTAの研修会に参加しました。驚きの連続でした。

日本交流分析協会第42回全国年次大会で開催地は京都でした。この催しを紹介して下さったのは岡野亜希子姉で大会会場では共に学ぶ栄光に浴しました。

驚き 1. 42年前にはこの団体が存在していたこと。私が学ぶ12年前です。

TA理論の進化深耕と著しい発展

驚き 2 参加者の多さ、しかも参加者は殆どがプロフェッショナル級の知識を有している

驚き 3 会員はTAの普及活動を各地で積極的に実施している。

驚き 4 海外の先駆者との連携をとり、TAの理論深厚と発展に寄与している

驚き 5 日本にこのような団体が他に2つある。

「井の中の蛙大海を知らず」と大反省でした。

参加者は皆さん生き生き伸び伸びされ、喜びをもって奉仕活動をされていました。今年の当番は関西支部ということで、最寄り駅からの道案内にも立たれる等、参加者が気持ちよく学びすごせる環境を整えておられ敬服しました。

(2)基調講演に惹きつけられて参加

事前に頂いたパンフレットに「幼児期に描いた人生脚本を、最良の自分になる人生計画に書き換えよう」とあり、これは私の基幹テーマですから、参加せずにはおられないと思い京都に行きました。基調講演にはカレン・プラットさん、ともかくこの世界では有名な先生で多くの方の尊敬を集めておられる方でした。綺麗な英語で通訳も適格で切れ味の良いコンビネーションでした。学びの内容は後日としますが、私が一番感動したことを紹介します

We-ness(わたしたちであること) 「わたしたち」がないと「わたし」はない。

「わたしたち」という文脈において「わたし」とは誰か？

他人は「わたし」をどのように形作っているのか

人々は異なった役割を持つかも知れないが、それぞれが100%の責任を負う

カレン・プラットさんは南アフリカに住み、厳しい人種差別の環境の中で、共に学べる安心した環境をつくるための教育者として奉職されている方です。その背景から出てきた彼女のWe-nessを京都で考えるには私にとって極めてタイムリーなことでした。

今ひとつ彼女の教えるスキルの素晴らしさ。簡潔明瞭に示す問いかけがありました。

「皆さんの人生スクリプトを、皆さんの日本文化の特色である、俳句で表現したらどのようになりますか？」時間は3分です。さすが、学びのレベルの高い参加者、数名の発表にどよめきの声があがりました。私の一句「夕映えにきらりと光るおちばかな」

カレンさんの生国は分かりませんが、彼女は正直に「俳句の言い回しは分かりませんが、この場の皆さんの反応をみていると、よく分かります」とTAのベテラン者らしく話されました。それにつけても、よく日本を研究した質問の仕方であっばれな基調講演でした。

残念ながら私はその後に開かれたワークショップには参加できませんでしたが、晴れ晴れとした気分で京都の町を歩き、宝塚で孫娘のピアノ発表会でさらに気分を高揚させ、最後は、プロの「ワルトシュタイン」を聴かせていただき予期せぬ歓喜の連続で「一寸さきは光」という一日を過ごしました。おわり。

TAを愛する日本の皆様へ



K. Pratt

私は9月の全国年次大会(京都)に招かれて講演することにとっても感激し、名誉に感じています。
私が初めて美しい日本を訪れたのは2013年、大阪でのTA国際大会の時でしたが、再び日本で皆様にお会いできることを大変嬉しく思っています。

私は、私のTAへの熱い気持ちを皆様と共有したいと思っています。
その気持ちとは、多様な文化の違いを超え、TAが多くの人々の人生にどのように貢献してきたかを問うこと、一とりわけTAの教育者としての観点から、個人と個人だけではなく、社会の中でTAによってどのようにして強さ、回復力、創造性を探求めることができるのかを問う私の熱い気持ちです。この気持ちを皆さんと共有しながら、皆さんが最高の自分に輝けるように、また自分の周辺(家族、文化、組織)まで輝きが及ぶように、皆さんと一緒に自己変革への旅に出かけたいと思っています。

私は最近のTAの著述家の考え方についても皆さんと共有したいと思います。
古典的なTAが受け入れられ、異なる状況、時代、文化にどのように適応してきたかを見るのはなんと素晴らしいことでしょう。
私は皆さんに自分が知っているTAを活用していただきたいのです。そしてTAを知らない日本の人々に対してTAが変化を与える力強い道具となり続けるように勇気をもってTAを広めていただきたいのです。

カレン プラット

TSTA (教育)

TA matters

developing
transforming
transcending

